

第59回 MESH 環境デザインセミナー

2007年7月6日(金) 18:30~20:20

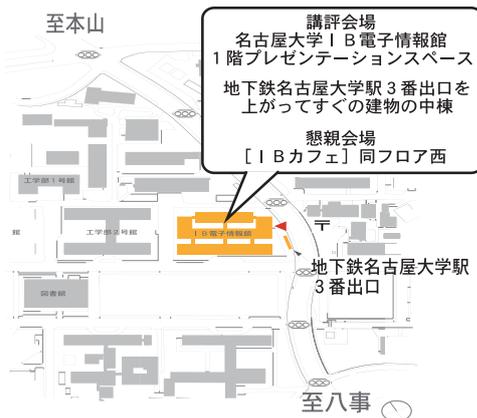
(18:00より受付開始)

名古屋大学 IB電子情報館 1F IB105講義室

名古屋市千種区不老町

セミナー参加費=1,000円

懇親パーティー=2,000円



[http:// m-e-s-h.org/](http://m-e-s-h.org/)

- 主催 MESH(環境提案協会-中部)
- 共催 名古屋大学 谷口・恒川研究室 後援 JCD(社団法人日本商環境設計家協会中部支部) JID(社団法人インテリアデザイナー協会中部事業部) SDA(社団法人日本サインデザイン協会中部地区) CIP(有限責任中間法人中部インテリアプランナー協会) 国際デザインセンター
- 協力 名古屋大学 愛知淑徳大学 福山女学園大学 名古屋工業大学 トライデントデザイン専門学校 名古屋デザイナー学院 コイズミ照明株式会社 株式会社スペース 松下電工株式会社

第1部 テーマ 景観・環境・建築 「平等院そして長崎」 (18:30~20:00)



岩佐 達雄 Tatsuo Iwasa

ランドスケープとして建築を考える。建築を作ることは環境を作ることである。場所性を見極め、環境デザインの関係性を再構築する。

1950年 長崎県生まれ。1973年 熊本大学建築学科卒業。1973年 早稲田大学大学院 建築計画修士課程。1975年 同修了。増沢建築設計事務所。1979年 株式会社都市建築設計事務所Kアトリエ設立に参加。1987年 株式会社栗生総合計画事務所と改称、専務取締役。1992年 株式会社栗生総合計画事務所 代表取締役。社団法人日本商環境設計家協会 理事

▶コメンテーター…谷口元・堀越哲美・加藤和雄



平等院鳳翔館

第2部 学生プレゼンテーション (20:00~20:20)

名古屋大学 環境学研究科 都市環境学専攻 佐藤みな子 西村健

▶コメンテーター…岩佐 達雄・堀越哲美・加藤和雄

■コメンテーターの紹介



谷口 元
名古屋大学教授



堀越 哲美 都市環境デザイナー
名古屋工業大学大学院教授



加藤和雄 建築家・デザイナー
加藤和雄/状況空間研究所主宰
MESH会長



愛地球博バイオリングとステーション



セミナー会場



懇親会

■第1部:テーマ「平等院そして長崎」 講師:岩佐達雄 (栗生総合計画事務所 代表取締役)

昨今の建築の状況は危機的。一人の設計士による構造の偽装は、大きい社会問題になった。建築家の仕事の役割の一つに、設計者の教育も含まれている。世の中、安ければいいのではない。社会的行為としての位置付けを認識しながら、自分の存在感を確認して行きたい。設計者を始め関係者全員が迷った時に、そこにたちかえることが大切である。

平等院

□地下空間の提案

入り口をわからないように作り、地下へいくことで建物の高低差を解消している。外観を壊しているRCの建物の屋根を建物を低くすることで、木々の中に隠し、水のラインも無かったので乾いた地下空間を作ることができる。

□外部空間

南門を整備し、宝物間の正面から入るのでなく、ルートを長くすることで、宗教的な気持ちになるようにした。

□内部空間

拝観のアプローチは、梵鐘(鐘楼)→フェニックス→大和絵→瓦(各修理時の出土品)→菩薩像というようにした。雲中供養菩薩像は、52体のうち51体が国宝になっている。それらをどのように見せるか?というのが、展示の最大の課題。博物館としてだけでなく、宗教空間の中で見せたい。

ライティングについても、実物大の仏像を借りて、実験した。目線で見せたい。→光ファイバーで浮いているようにした。笙を鳴らしながら、舞っているように表現した。屋外に出るための休憩所が無かった。そのため、建物に絡めて、ヒノキの無垢板を貼った空間を作った。(ヒノキの厚みは、菩薩の前段と同じにした。)縁側のようにしており、大本山の朝日山を眺める。養林庵書院という建物も敷地内にあり、秀吉が使ったといわれる茶釜もある。外構と植栽のすり合わせがしたい。悲しいことに、景観が商業地域を制御できない。掘っていたら室町時代の蓮の種が出てきたので、鉢植えに植えてみた。 鳳凰堂が持つ軽快さを生かして、風の通り抜ける道をつけたい。格子戸を使うことで、和風は少しでありながらも、和風に合うモダンな空間を作った。

「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 -心に向かう祈りの光-」

原爆の記憶を風化させずに、戦没者を追悼する建物を国が造った。→長崎のシンボルとして、可視化する。

平地が少ないことを逆手に取り、市内各所から、存在を可視的に認識できる。広島・長崎の両方でつくる8万人の手記(長崎は3万人)をデータ化して調べられる。ホールをラウンジとして作り、中庭との間仕切りのガラスの壁を開いて中庭と一体化して広さをだしてmミーティングスペースを作る。国際交流の意味合いを持たせるために、国際平和機関を100枚くらいのカードにして持ち帰られるようにした。また、思いを託せるカードもつくり、記憶をとどめる工夫もした。

追悼空間には光の柱12本(時を刻む光の柱)……9mの柱の中に戦没者の名簿を入れる。事前に高校生にインタビューをした。正直に感じた原爆への重い気持ちを受け止める空間にしたかった。自分の中にある好戦的な気持ちを打ち消すには、自分の心を問い返す場が必要。また、時々来て、世界平和のことを考える空間にしたかった。600角の石に3mmの穴を開けて、光ファイバーを入れて水の中で光るようにした。原爆の悲惨さを伝えたかった。追悼の気持ちを伝えたかった。精霊流しのともしびのを表現したかった。死没者7万人の光を表現したい。夜間8時まで、追悼できる。



岩佐達雄氏

質疑応答

谷口先生

デザインの根源にかかわる内容でとてもよかった。現代デザインは、今までに無いもの・主張するものを作ってきた。教育では周囲を見なさいということが多いが、マイナスするもの・記憶を残す・あるいは建築の精神性を追及するようになった経緯を教えてください。

岩佐先生

基本的に私は、モダニズムを習った。しかし、高度成長化し、要素を細分化しその行き着いた先のモダニズムよりも場所の持つ意味を見直さないといけないと思うようになった。外部と建築(ランドスケープの一部)のあり方が問われている。潜在化しているいいものを顕在化し、悪いものはいいものに改善する。建築することは、物を作るのではなく、コトである。宝物の長期にわたる保管、長崎では追悼、それらを運動体として影響していくものとして、建築があればよい

堀越先生

共通性(宗教空間・祈りの空間)の中で、空との関わりの美しさがうまく表現されている。地下から覗く空間の面白さの発想はどこから?また、土地性の読み取り方、山とのつながり、スケッチのやり方についても教えてください。

岩佐先生

敷地の制約・朝日山を眺めることの重要性・場の獲得など、すべて外とつながればよいわけではない。模型でスタディーした。空が好きなのは、ガラスが好きなのとつながっている。室内で外を感じることを心がけている。その素材として、ガラスは適している。空の切り取り方—天気の良い日は、空気で空とつながることが大切。地下にもぐって何も見えないのに誰に向かって何を訴えられるか?訪れる人にも気持ちよく接することが出来ないから。光の力をどう生かすかということ、私は常に考えている。

加藤先生

建築の見方—誰に対して何を提案するのか?それが今回の作品は、コト。環境的建築を建てるにあたり、目に見えるコンテキストと目に見えないコンテキストについてはどう考えているか?

岩佐先生

機能の前に目的がある。好みで物を決めさせない。そのためのストーリー(誘導させる為の)建築はすべて街づくりに参加している。

①景観②商業的③その他 建築とそれらの関係をスタディしながら考えて作っている。

第2部学生プレゼンテーション



1)西村 健氏 「マチノタネ」

使われずに廃線になった鉄道高架線と廃コンテナ(マチノタネ)の再利用。

2)佐藤 みな子 さん

「迷いの先に見えるもの」 名古屋市科学館建て替え計画